

おとさだ
乙貞

第 205 号 通巻 36 巻 第 1 号
平成 27 (2015) 年 6 月 1 日 発行

守山市立埋蔵文化財センター
TEL/FAX 077-585-4397

〒524-0212
守山市服部町 2 2 5 0 番地

六月に入りいよいよ梅雨の季節到来ということになります。

漢字表記「梅雨」の語源としては、この時期は梅の実が熟す頃であることからという説や、この時期は湿度が高くカビが生えやすいことから「黴雨（ばいう）」と呼ばれ、これが同じ音の「梅雨」に転じたという説、この時期は「毎」日のように雨が降るから「梅」という字が当てられたという説などがあるようです。

農作業にとっては恵みの雨になろうとも、行楽や行事には嫌われる雨。降らないようにと願いを掛けて「てるてる坊主」を作った経験もあろうかと思えます。

資料で、てるてる坊主を確認できるのは意外と最近で、江戸中期頃に飾られていたことは事実のようです。この頃は現在と異なり折り紙のように折って作られるもので、より人間に近い形をしており、その形代を半分に切ったり、逆さに吊るして祈願したと言われています。晴天になった後は、瞳を書き入れて神酒を^{みき}供え、川に流すと記されていることから、宮崎県高千穂地方などの人形流しにも類似性を見出すことが出来ます。

昨今では軒先に吊られている姿をみることもめっきり減りましたが、この季節を楽しむという意味で作ってみてはいかがでしょうか。

発掘調査だより

1. 下之郷遺跡の発掘調査(第 105 次調査)

下之郷二丁目において、宅地造成工事に伴う発掘調査を行っています。この調査地は、平成 26・27 年度に確認調査を実施していますが、今回は^{ようへき}擁壁と上下水道、ガス管が埋設される部分を対象としています。

確認調査では、北東側から南西方向に向けての大溝と、この溝と交差する溝が見つかっており、今回の調査でもその続きを検出しました。

大溝は、検出面から深さ約 1.7m もあり、溝底に近いところからは、弥生時代中期の土器が出土しています。

調査の結果から、全ての溝がさらに調査区外に伸びていくことがわかりました。(北川)

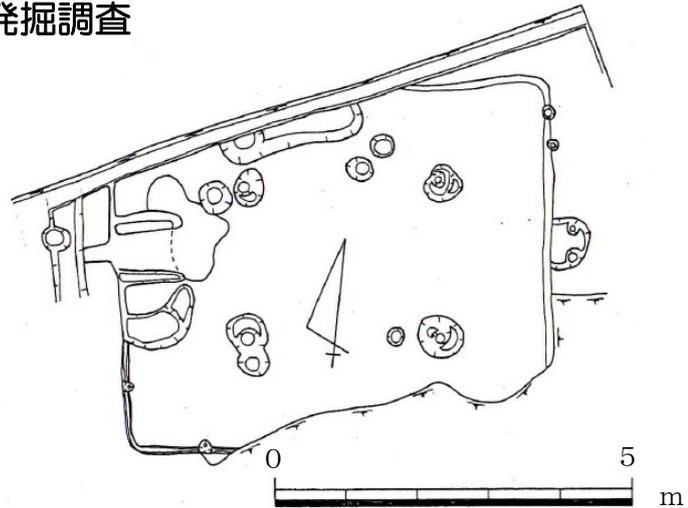


▲ 上下水道埋設区域

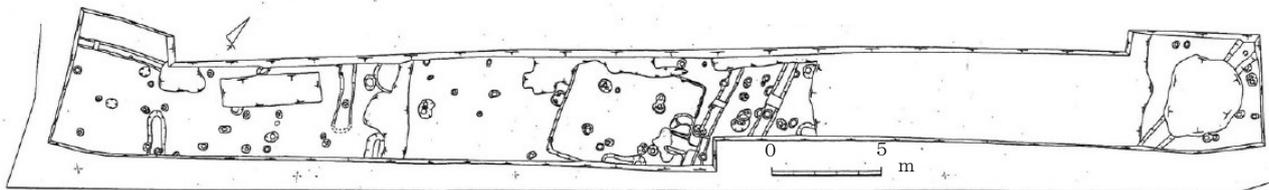
2.益須寺・益須寺関連遺跡の発掘調査

吉身五丁目地先で、宅地造成工事に先立ち、発掘調査を実施しました。

調査地は、JR 琵琶湖線と琵琶湖大橋取り付け道路が交差する地点の北側に位置しており、近隣の調査では、前方後方型周溝墓や奈良時代の瓦が多数出土しています。



▲ 竪穴建物平面図



▲ 検出遺構全体図

調査地は事業用地であった場所で、大きな攪乱坑がありましたが、攪乱されていない場所では、溝や竪穴建物、柱穴等が検出されました。溝からは弥生土器や古式土師器が出土しており、弥生時代中期から古墳時代前期の遺構とみられます。

調査区中央では古墳時代後期の竪穴建物が1棟検出されました。床面から土師器の甕や須恵器杯蓋などが出土しており、6世紀前半の建物と推測されます。4本の支柱穴が検出されたほか、北西辺の壁際中央でカマドが見つかりました。カマドの焚口には焼土や灰が厚く堆積していました。

このほか、多数の柱穴が検出され、出土土器から平安時代から鎌倉時代にかけての建物跡と考えられます。

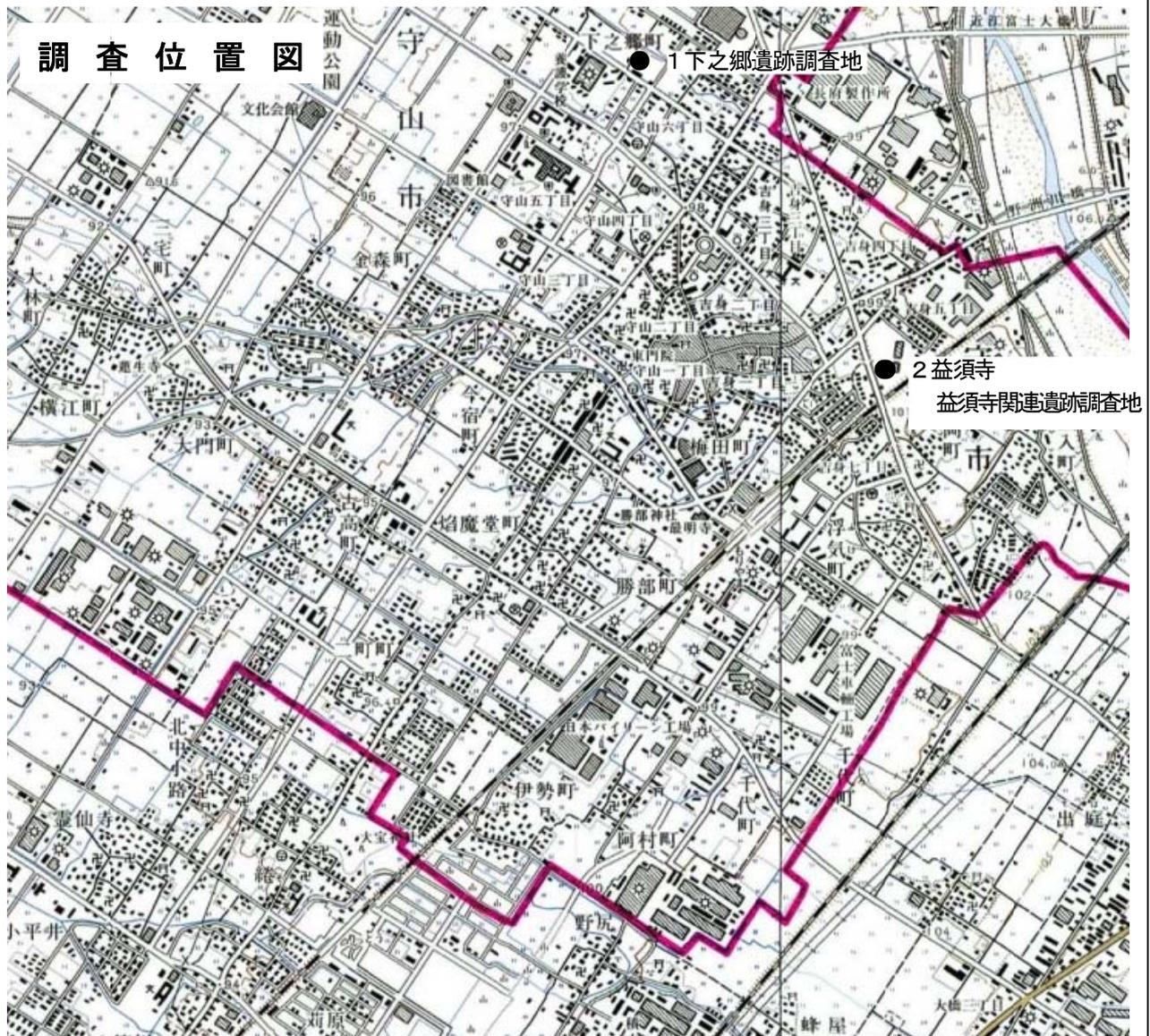
今回の調査では、多数の遺構が検出され、この周辺に弥生時代中期から中世にかけての集落が広がっていたことが判明しました。 (伴野)



▲ 調査地全景



▲ 調査地全景 竪穴建物



トピックス

5月3日から開催しています春季特別展『有形民俗資料で見る-明治から昭和の暮らしと生業-』はご好評を頂いています。

中には、お孫さんと共に足を運んで下さる方もおられ、懐かしそうにご覧頂いていました。

明治、大正、昭和という手の届きそうな近い歴史に触れることは、太古の歴史を知ることとはまた一味違った趣きがあるようです。



▲ 見学風景

埋蔵文化財センター友の会だより

埋蔵文化財センター友の会は、5月20日（金）に第1回見学会を開催しました。

今回の見学会は、滋賀県立安土城考古博物館の春季特別展「信長の家臣たち」を観覧するとともに、高木叙子さんに同テーマで講演して頂きました。1時間という短い時間では足りないほどに大変詳しく解説して頂き、あっという間に時間が過ぎていきました。

また、展示も貴重な資料の数々であり、友の会の会員様から、大いに満足したとのお声を頂戴致しました。



▲ 安土考古博物館・高木叙子さんの講演風景

お知らせのコーナー

埋蔵文化財センターでは、古墳時代の鏡づくりを体験する夏休み考古学教室「鏡の^{ちゅうぞうたいげん}鑄造体験 -古墳時代の鏡をつくってみよう!-」を、夏休み期間中の7月30日（土）、8月4日（木）の2回開催します。

詳しくは、広報もりやま7月15日号やホームページに掲載しますので、是非、参加してください!



鏡づくりのモデルです!!

【後記】

五月に入って発掘調査が多くなり、外に出ている機会が多くなりました。この時期とは思えぬほどの酷暑に肩で息をすることもしばしばあります。皆様もこまめな水分補給など十分体調にお気を付け下さい。

水分補給といえば、奈良時代の平城京の門外には蜜柑^{みかん}の木が植えられ、旅人の喉を潤していました。時刻になれば都の門戸は閉じられ朝になるまで決して開かぬ中、それは大層重宝したと言われております。しかし、これは「おもてなし」の為に植えられたのではないのです。長旅に疲れた旅人の中には、門外で倒れて亡くなる方も多くおられました。遺体の処理に困った役人が、門外で亡くならないようにという目的で植えたと言われております。水道をひねれば、渴きをいやせる今の暮らしは、ありがたいものだと言われたい話ですね。

（今村）